

「新年 おめでとう」

2017年 01月 02日

新年、おめでとうございます。

「言（キリスト）の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」（ヨハネによる福音書1章4節～5節 a）

この年の、あなたの歩みの上に主イエスの恵みと祝福をお祈りいたします。今年もよろしくお願ひいたします。

隆雄は宮崎県の延岡三ツ瀬教会の創立 80 周年記念礼拝、大分県の母教会・杵築教会の創立 125 周年記念礼拝に招かれ、説教に行きました。懐かしい方々との再会を喜び合いました。ホームページを書き、「憲法守れ」の活動と集会を地道にしています。

悦子は母校の創立 130 周年記念式典に参加しました。少女時代に戻り、旧交を温め、嬉しい時を持ちました。地元弘前の新聞に大きな写真が載ってびっくりしました。夫の隠退とともにゆっくりと自由な時間を過ごし、それなりに充実した日々を送っています。

2017年 元旦

今年の私たち夫婦の年賀状である。隠退して3年になる。現役の時は、追われるような日々であったが、今はゆったりと暮らしている。ゆったりした生活を申し訳ないと思っている。私は、岳父・菊池吉弥牧師の信仰に倣い、苦難を負う中で、復活の命に与るという信仰を生きたいと励んできた。パウロがフィリピ書3章10節で「わたしは、キリストとその復活の力とを知り、その苦しみにあずかって、その死の姿にあやかりながら、何とかして死者の中からの復活に達したいのです」という信仰である。その信仰を励んできたつもりでいたが、隠退してつくづく思うことは、教会員の方々が本当に忍耐して、私を支えてくれたということである。これも申し訳なく思うことで、同時にただ感謝である。

昨年、延岡三ツ瀬教会と杵築教会で説教する機会を与えられた。延岡三ツ瀬教会は40年ほど前に、伝道・牧会していた教会である。当時、礼拝に来ていた高校生だった男性を見舞ったら、彼から「先生は体から絞り出すように説教をしていましたね」と言われた。驚きと同時に、そうだったんだと納得した。自分を肯定できるキリストの福音を懸命に模索しながら、説教をしていた時代であった。牧師は説教において伝道する。私の牧師生活の中で、求道者がいなかった礼拝は一度もない。私の密かな誇りである。

シリアを中心とした中近東の混乱には胸が痛む。戦火の下で、死の恐怖に晒され、飢え、渇き、医療も受けられない。この悲劇はどうすれば解決に向かうのであろうか。米国が起こしたアフガン、イラク戦争から生じたことは確かである。安倍政権は相も変わらず、米国の一辺倒である。戦争国家・米国への追従は歴史の中で、手痛いしっぺ返しを受けるであろう。それでも、安倍政権の支持率は高い。国民は生活の安定を求め、他の野党は当てにならないとし、自民党支持を変えない。私は、「九条の会」の活動を続けているが、活動に関わる人々の熱心さに敬服する。毎日、平和、沖縄、反原発の集会が、至る所で持たれている。私のできる範囲は限られているが、命と平和を守ろうとする彼らに励まされている。

今年はどんな年になるのであろうか。自己主張が激しく、他を敵対視し、寛容さを失い、忍耐力も無くなってきた。貧富の格差が拡大する中で、人々の心が荒廃していくことが心配である。「悲観論は感情的で、楽観論は意志的である」という言葉がある。暗闇に思えたとしても、輝くキリストの光に照らされていることは事実なのであるから、大いなる楽観を生きたいと思う。神の命に与っている信仰は、今を喜ぶことである。